

常樂序

娘9例)・河東節(ぬれ扇12例)

盤渉調(輪臺・越天樂・白柱・採桑老・劍氣神脱・宗明樂・萬

秋樂破・蘇合香破・蘇合香三帖・竹林樂)

黄鐘調(越天樂・海青樂・西王樂破・青海波・平蠻樂・桃李花・

蘇合香急・央宮樂)

雙調(春庭樂・柳花苑・回盃樂・武德樂・胡飲酒破・新羅陵

王急・入破・鳥急・賀殿急・賀殿破・陵王・颯踏・鳥破・

北庭樂)

太食調(合歎鹽・長慶子・朝小子・仙遊霞・庶人三臺・輪鼓禪

脫・拔頭・傾盆樂急・還城樂・打球樂・蘇芳菲・武昌樂)

(D) 平調(慶雲樂・五常樂破)

《蘭八節》大正九年六月一日(水)より「道行相合炬筵」の採譜。嘱託

員は高橋よし(宮蘭千春)。記譜は前田と梁田が担当、調査は翌年七月まで。高橋の死去(十三年七月)により、昭和二年楽譜完成に当たり、弘田が小林きん(宮園千香)に再調査している。

(A) 道行相合炬筵(梅川)・鳥邊山・里の色絲

《荻江節》大正十年九月二十八日(水)開始 曲は「短夜」。嘱託員は荻江ひさ。記譜は前田と梁田(十一年まで)が担当。採譜は十二年六月まで、のち十五年十二月より弘田が整理・淨書した。

(A) 高尾・深川八景・竹・短夜・松・金屋丹前・夜半樂・梅

《民謡》レコードからであるが、大正十、十一年に梁田が採譜しており、十五年に弘田が淨書した。

(A) 相馬節(「蓄音機レコードより」)・米山節(「同」)・磐城平盆踊

唄(笛)・「同」・おいとこ節(「同」)

〈その他〉

オトシ・ナガシ

(A) 菅野一中節(自然居士13例)・都一中節(夕霞浅間嶽6例)・常

磐津節(傳授の雲龍4例)・清元節(梅の春7例・淺間11例)・

新内節(明鳥夢泡雪上12例)・富本節(忠信16例)・長唄(鷺

カカリ

(A) 長唄(京鹿子娘道成寺10例・勧進帳14例)・清元節(淺間5例・

長生6例・玉兔5例・北州4例・梅の春4例)・河東節(ぬれ扇

4例・助六1例)・外記節(傀儡師1例・鎗踊1例・水調子1例)・

富本節(忠信8例・高尾鐵梅3例・松風2例・家櫻三番叟1例)・

菅野一中節(自然居士・冲中川・江の島・業平河内通・稽首國

道行・八重霞浪華濱荻・上下・名護屋帶・江戸紫/以上各1例)・

常磐津節(將門2例)

(B) 常磐津節(10例)・菅野一中節(11例)・都一中節(4例)

(六) 錄音

蟻管および平円盤に、調査中の曲あるいは奥淨瑠璃など招聘した研究的種目を録音している。最初の録音は、明治四十一年二月二十二日の清元「保名」であった。「蓄音機」と題する吹込み記録から年月日、曲目、演奏者を記した「蓄音機吹込」を載せる。ただし「日誌」と多少異なる部分があるので、先に日誌における当該部分を示しておく。

蓄音機吹込み

(1) 日誌

二月二十二日 土曜日

流名 清元

外題 保名

歌 岡村庄吉

三絃 清元榮吉

蓄音器蟻管吹込

午后零時三十分始メ四時終リ

蠟管九本

富尾木赤川出席

二月二十九日 土曜日

流名 清元

外題 保名 北州

歌 岡村庄吉
絃 清元榮吉

蓄音器蠟管吹込午后零時三十分始メ全五時終リ

保名一回 蠟管九本

北州二回 蠟管一回七本死

外二

午前二石原廣吉蠟管壹本、葉唄水さし吹込

合計 蠟管貳拾四本

削直し五本

三月二十七日午后蓄音器吹込

流名 清元

外題 淺間

歌 岡村庄吉
絃 清元榮吉

淺間嶽始メより關守もまで

蠟管壹本

三月三十日午后蓄音器吹込

流名 清元

外題 梅の春

明治四十一年三月七日

明治四十一年二月二十二日

(2) 「蓄音機吹込」

明治四十一年から大正七年までの蠟管および平円盤吹込みの記録。現存する蠟管に「*」印を記しておく。ただし一部内容を欠くものもある。音質は全体に不良。現存蠟管については「東京芸術大学芸術資料館所蔵邦楽調査関係の蠟管の録音内容調査報告書」(平成二年本学音楽学部音響研究室調査)がある。

歌 岡村庄吉
三絃 清元榮吉
梅の春全部蠟管七本

外二 淺間 壱本

〔手書き〕

五代清元延壽太夫事

岡村庄吉
文久二年八月生
三十五歳

清元藤吉事

岡村庄吉
大高藤次郎

三絃 大高藤次郎

全部二通

蠟管拾八本〔*〕

全 リ 拾四本〔*〕

全部 リ 七本〔*〕

リ 貳本〔*〕

始よりはかなくもまで

名見崎友喜事
山田 ゆき
四十五歳

賓頭盧
猫の妻

六代名見崎得壽齋事
三絃 吉野萬太郎
大正二年一月五日生
大正六年七月三十日死亡

高尾
五大力
黒髪

一富本
年朝嘉例壽
其佛淺間嶽
始メより淺間山まで

全部 蟻管 五本 [*]
リ 六本 [*]

小唄水さし

明治四十一年三月二十日

四代菅野序遊事
菅野 藤次郎
天保十二年九月生

明治四十一年十一月七日

一菅野

全部 蟻管 五本 [*]

一外記節
住吉踊

明治四十一年三月二十九日^(五)

館山漸之進
天保十三年三月生
大正四年二月十七日死亡

明治四十二年四月八日

大盡舞

全部 蟻管 十七本 [*]

一平曲
奈須野與一

明治四十一年三月三十日

五代杵屋勘五郎事
石原廣吉

明治八年四月十四日生

明治四十二年九月二十五日
一富本節 年朝嘉例壽
一木遣節 全盛操花車

わが國の年の始メヨリ
あら玉の年が代マテ

絃 歌 富本 蟻管 貳本 [*]
リ 五本 豊芝 三本 [*]

佐田コトトヤ

六十四年

十一代山彦秀次郎事
伊東秀次郎
天保十二年六月生

全全全全全全
リリリリリリ
貳本貳本貳本貳本
壹本壹本壹本壹本
貳本貳本貳本貳本
貳本貳本貳本貳本
貳本貳本貳本貳本

一長唄
明のかね
壽

全部 二通 蟻管 貳本 [*]
リ 壹本 [*]

大正六年七月三十一日死
去享年一月五日生
年七十五歳
吉野萬太郎事
名見崎得壽齋
弘化二年
享年七十五歳生
三十九歳

79歳

明治四十一年二月京都ニ於テ

一重太夫節

ぬれ扇	田中キヌ	全部	蠟管	六本	〔*〕
きぬた	前田玄七	山口巖	リ	貳本	〔*〕
大和文	全	全部	リ	壹本	〔*〕

明治四十一年四月十四日千葉縣茨城縣下へ修學旅行中吹込⁽¹⁾

二上り後

機節	大正三年一月十二日淺草高等工業學校	水戸ニテ吹込	蠟管壹本	〔*〕
加藤與五郎氏ニ渡ス		リ	壹本	〔*〕

説教入り二上り

リ	リ	壹本	〔*〕
---	---	----	-----

(1) 右はいずれも水戸にて吹込み。ほかにも水戸・銚子での吹込三曲記録されるが「削直し」などで削除されている。

明治四十二年四月二十九日春季遠足ニテ宇都宮福嶋仙臺へ旅行際各處ニテ吹込⁽¹⁾

ウツノミヤ盆踊	宇都宮ニテ吹込	蠟管壹本	〔*〕
相馬節	福嶋市ニテ吹込	リ	〔*〕

(1) この記録でも「削直し」などで六曲削除。

明治四十三年六月二十四日午前九時京橋區弓町日本蓄音機商會二富

本豊芝ヲ聘シ左ノ曲吹込マシム永井三宅兩氏出席

お菊幸助	二通	平圓盤	六枚
れうし	二通	平圓盤	六枚

(1) 「八重九重花絵姿(漁師)」

明治四十三年十月二十八日午前九時宮城縣名取郡茂ヶ崎長町瞽者赤

井澤龍の市氏ヲ本校ニ聘シ蠟管ニ左ノ曲ヲ吹込シム

奥淨瑠璃(一名仙臺淨るり)

八嶋	一部分	蠟管	四本	〔*〕
御所の的	リ	リ	三本	〔*〕

明治四十三年十一月十二日午後沖縄縣人金武良仁氏(三十歳位)ヲ

聘シ左ノ曲ヲ蠟管蓄音機ニ吹込マシム 竹内氏本居氏出席

琉球歌	蠟管	四本	〔*〕	
一作田節	附早作田節	全	壹本	〔*〕

一散山節	蠟管	四本	〔*〕
全	壹本	〔*〕	

明治四十四年二月二十日本校員下川書記福岡縣山門郡瀬高町字大江ニ出張シ左ノ諸氏ヲシテ幸若ヲ蠟管蓄音機ニ吹込マシム⁽¹⁾

一日本紀	蠟管	八本	〔*〕
一和泉ヶ城	全	六本	〔*〕
一曾我夜討	全	八本	〔*〕
一富権	三本	三本	〔*〕

一高館	三本	三本	〔*〕
一那須與市	全	三本	〔*〕
一屋嶋	全	二本	〔*〕
一富権	全	三本	〔*〕
一曾我夜討	全	三本	〔*〕
一和泉ヶ城	全	六本	〔*〕
一高館	全	八本	〔*〕

(1) この出張録音の記事(下川惇執筆)が「音樂」第二卷第五号、二九〇三〇頁に掲載されている。

明治四十四年六月二十日新潟縣佐渡郡二宮村窪田住深山靜賀改名岡
本文彌氏四十九歳ノ盲人ヲ本校ニ聘シ文彌節左ノ曲ヲ蓄音機蠟管四
本ニ吹込マシム

源氏鳥帽子折ノ内一部分

(*)

マシム

全廿一日全氏ヲ銀座一丁目三光堂ニ招キ蓄音機平圓盤六枚ニ左ノ曲
ヲ吹込マシム

源氏鳥帽子折ノ内一部分⁽¹⁾

(1) 蠟管とは別の部分。

佛名

百八讚

吉慶梵語讚

諸天漢語讚

六道講式(人間)

論義

伽陀

教化

鳥邊山 全部
菊の露 全部 (上方唄)
袖のしづ (上方唄)

大正三年二月廿四日ヨリ約一ヶ月ニ亘リ本掛ニテ日清蓄音機會社ニ
命ジ各流派ノ太夫吹込ミタルモノ (平圓盤)

明治四十四年七月三日新潟縣北蒲原郡中條町大字中條五百九十九番
地五十嵐慶豐氏^(數)盲人^(十二歳)ヲ銀座一丁目三光堂ニ招キ左ノ曲蓄音機

平圓盤壹枚吹込マシム (城ノ君ト云フ座頭ナリ)

金平節

四天王太田合戦

大正二年六月二十八日新潟縣佐渡郡河原田町松村村次 (岡本文壽

三十六歳先生深山靜賀ニ隨行シ來校セシ者ニテ同人門人ニテ文彌節語リ) ヲ本掛室ニ聘シ源氏鳥帽子折

天神記等語ラシメ蓄音機蠟管參本ニ右外題ノ内一部分ツ、ヲ吹込

マシム

聲明 大正二年九月二十九日京都大原魚山寶泉院僧正瀧本深達氏ノ
高弟竹内道忍氏吹込

天台宗

佛名

百八讚

吉慶梵語讚

諸天漢語讚

六道講式(人間)

論義

伽陀

教化

(*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*)

菅野一中節 助六道行^{全部}五枚 金村屋^{一部}三枚 鷄卵酒^{一部}一枚 かしく^{一部}一枚 拾六枚

上方唄 十三鐘^{全部}六枚 柳髮^{全部}一枚 關寺小町^{全部}四枚 時雨弄齋^{全部}四枚

鉢の木^{一部}二枚

半太夫節 小鍛冶名劍之卷^{一部}三枚 清見八景^{一部}三枚

六枚 拾三枚

河東節

亂髮夜編笠一部四枚 炙すへ嚴の疊夜着三枚一部

七枚

富本節

連理の橋虫賣一部 四十八手戀所譯相模一枚

七枚

蓄音器ニトルヘキ平曲目次

楠美恩三郎上告

平曲二百句ヲ西洋樂譜ニ譯スルノ不可能且ツソノ徒勞ナルハ昨日

上申セリ

其際附加シテ譯譜ノ極メテ困難ナル理由ヲモ上申セリ

夕霞淺間嶽 大正七年六月四日日本橋區新右工門町 東京蓄音機會

社ニ於テ菅野序遊氏吹込（七十七歳）平圓盤兩面五枚

ニテ全部終リ合計三通アリ 右ニツキ本掛ヨリ前田北

村兩氏同日同處へ出張セリ（原盤十枚アリ）〔手書き〕

計四拾九枚

七枚

大正三年二月の吹込みは、「日誌」によれば、前日の二十三日

（月）に日清蓄音機製造株式会社より社長、技師そして日本人社員

などが来校して機器を据え付け、次のような日程で進行した。

二月二十四日（火）一中節「金村屋正」（菅野藤次郎）、上方唄「十三

鐘・柳髪」（小井手トイ）

二十五日（水）一中節「金村屋・三勝鶏卵酒・鉢の木・かしく」（菅

野）

二十七日（金）一中節「助六道行」（菅野）

二十八日（土）半太夫節「小鍛冶名劍の巻」・河東節「炙すえ」

（伊東秀次郎）

三月二日（月）半太夫節「清見八景」・河東節「亂髮夜編笠」（伊

東）

三日（火）富本節「四十八手戀所譯・連理の橋」（絃・名見崎

得壽齋 歌・富本豊芝）

四日（水）本校生徒男女コーラス（三枚・曲名不記）

五日（木）上方唄「關寺小町・時雨弄齋」（小井手正記）

明治四十三年一月廿日

〔手書き〕

右曲目内容については左のように訂正・追加して六月に再提出してい

八坂流訪月 第六ノ詢クドキノ大宮御撥パチヨリ郢曲終リマテ（凡十五分間）

木曾願書 義仲苟モヨリ終リマテ（凡十分間）

内侍所都入 中音ノ海上ヨリ三重下リノ終マテ（凡十五分間）

終リノ指聲判官ヨリ終了マテ（凡七分間）

都 遷 第一ノ中音ヨリ百皇ノ帝祖タリマテ（凡七分間）

女院御出家 第一ノシホリ口說ヨリ第一ノ指聲半下ケノ終リマテ

（凡廿分間）

小原御幸 第一ノシホリ口說ヨリ初重中音カヨウノ處ヲヤ申スベ

キマテ（凡廿五分間）

祇園精舍 第一ノ中音ヨリ一ノ初重夢の如シマテ（凡十分間）

延喜聖代 第一ノ中音ヨリ三重下リ從ヒ奉ルマテ（凡卅分間）

剣の巻 第一ノ中音ヨリ初重ノ其故トソ聞ヘシ迄（凡十五分間）

明治四十三年一月廿日

〔手書き〕

る。

左は日付なし。蠟管については不明であるが、平円盤に吹き込まれた曲に【*】を付す。

四十三年六月再調

蓄音器二トルヘキ平曲目次

八坂流訪月 大將夜うけ人靜まつてヨリ今様にこそ謠はれけれマテ

(約十分間)

都 遷 第一中音ヨリ百皇の帝祖たりマテ (約九分間)

女院御出家 第一シホリ口說ヨリ第一指聲半下ヶ終リマテ (約廿分間)

〔元〕 小原御幸 第一シホリ口說ヨリ素聲終マテ (約七分間)

中音遠山にかかるより花の形見なりマテ (約五分間)

初重中音中島の松にかかるるヨリ君の御幸をまち顔な

りマテ (約十二分間)

瓢箪屢々空しヨリ謂つべしマテ (約七分間)

折聲ノ君は未だ知し召れヨリつきさせさぶらひぬマテ

(約五分間)

中音ノやまばと色の御衣ヨリ忍んとすれとも忍れず

マテ (約十分間)

第一中音ヨリ初夢の如しマテ (約十分間)

第一中音ヨリ三重下り從ひ奉るマテ (凡卅分間)

第一中音ヨリ初重ノ其故とぞきこえマテ (約十五分間)

長強リ下ノ顯密論談ヨリ立て申されけりマテ (約七分間)

(手書き)

祇園精舎 延喜聖代 劍の巻 宗論

蓄音機蠟管二吹込ム可キ邦樂各流ノ外題及蠟管割り當豫定數
(一) 平曲 二拾本
(二) 河東節 三拾五本

内

三番叟 (初代河東作) (五本)

小鍛冶名劍揃 (半太夫) 【* (一部)】 (四本)

小袖模様 (半太夫) (六本) (拾本)

灸すへ巖の疊夜着 (二代河東作) 【* (一部)】 (拾本)

助六廓家櫻 (四代河東作) (拾本)

(三) 菅野一中 二重帶名古屋結 (金村屋おさん) 【* (一部)】 (拾本)

稽首國道行 (拾本)

(四) 都一中 辰巳の四季 (拾二本)

臯月前道行 (拾二本)

(五) 常磐津 老松前彈だけ (拾二本)

四天王大江山入山廻りの場 其の外一下りの所

(六) 富本 名酒盛色中汲 (お菊幸助) 【*】 (拾二本)

八重九重花姿繪 (漁師) 【*】 (拾二本)

(七) 江戸長唄

高尾饑悔

(八) 萩江

金屋丹前

八島

(九) 薭八

鳥邊山

(十) 説教

以上總計 壱百八拾本ノ豫定

五本

内侍所都入

八本

四本

五本

六本

松羽衣
文化年中
初代菅野序遊作曲

邦樂調査掛屬託
十代目都太夫一中事
伊藤模太郎

宇治紫交事
花里揚吉

都圓中事
島田傳吉

邦樂調査掛屬託
四代菅野序遊事
菅野吟平事
藤次郎

邦樂調査掛屬託
三弦
上調子
西山龜助

(七) 演奏会

邦樂調査掛関係者による演奏会は、回数を冠した定期的な邦楽演奏会が明治四十年十二月より大正二年十一月まで七回開催され、それ以降は大正十年まで臨時の四回のプログラムが残る。明治四十四年五月に行つた「獎學金募集」の演奏会は調査費用の寄付を募るために企画された（「議事録」四十四年四月二十八日）。なお大正四年に、三味線各流の保存・発展を図り、邦樂調査掛主宰ではないが掛長の発議で関係の家元たちによつて「邦樂會」が組織されており（二月二十三日発議、決定。第一回演奏会を五月二十六日に開催）、事務所を邦樂調査掛に置いて事実上邦樂調査掛関係者が運営に当たつた。

ほかに演奏者などを招聘した演奏・講演が行わされている。

(七) 演奏会

一、富本節

御代榮益穂富種

六代名見崎(得)德壽齋事
文政年中
邦樂調査掛屬託
三弦

吉野萬太郎

二代富本豊前太夫作曲

名見崎とく事

上調子

タカ子

五代清元延壽太夫事

岡村庄吉

五代清元家内太夫事

牧野熊吉

佐野莊吉

二代清元梅吉事

松原菊吉

二代清元梅吉事

清元志免太夫事

岡村庄吉

五代延壽太夫事

松原菊吉

五代延壽太夫事

松原菊吉

一、清元節

青海波

明治三十年
永井素岳作歌
五代延壽太夫作曲

邦樂調査掛屬託
五代清元延壽太夫事

岡村庄吉

二代清元家内太夫事

牧野熊吉

佐野莊吉

二代清元梅吉事

松原菊吉

二代清元梅吉事

清元志免太夫事

岡村庄吉

五代延壽太夫事

松原菊吉

一、富本節

明治三十年
永井素岳作歌
五代延壽太夫作曲

定期的演奏会（邦樂演奏会第一回～第七回）

第一回邦樂演奏會曲目（明治四十年十二月二十一日）

一、平

曲⁽¹⁾

邦樂調査掛屬託 館山漸之進